

授業 レポート

「プラタナスの木」 (四年下)

筑波大学附属小学校 青山由紀^{あおやま ゆき}先生 × 四年生(四十名)

今回ご紹介するのは、ペア・グループ学習を複数回設定した、「プラタナスの木」の授業です。「プラタナスの木」は、学習者と同じ四年生が登場する教材です。登場人物が等身大であることから、子どもたちは、感情移入しやすく、感想をもちやすい教材であるといえます。

青山先生は、ペア・グループ学習を設定する意義について、「子どもたち一人一人の発言機会が増え、思いを発散できる。それも大事なことです」と捉えています。子どもたちが思う存分に意見を出し合い、自分の考えを確かめ、深めていく授業の様子(3・4時、6時)をご紹介します。

▼指導計画(全7時間)

第1次

1時 物語の内容の大体を捉える。課題を作る。

第2次

2時 登場人物の人物像を捉える。

3時・4時 おじいさんは何者なのか。「木の精」なのか、「人間」なのか、その根拠となる叙述を探す。マーチンは気がついているのか。視点人物であるマーチんの行動・会話に着目する。

5時 物語の初めと終わりで「変わったもの」は何か。

6時 「変わらないもの」は何か。

第3次

7時 作品のテーマを自分なりにまとめる。「変わったもの」「変わらないもの」からテーマに迫る。



3・4時

おじいさんは何者？

▼「木の精」なのか、「人間」なのか
その根拠となる叙述を探す

授業の冒頭、青山先生は、前時の授業で児童が気にかけていたことを話題にしました。

先生 昨日の授業では、おじいさんは何者なのか、気になっている人がいましたね。今日はこのことについて考えてみたいと思います。さて、おじいさんは、人間なのでしょうか。それとも、木の精？

A児 最初は、「木が好きなん人」だと思ったけど、今は「木の精」だと思う。

先生 最初の授業のときは、「『木の精』だと思う」という人は二〜三人しかいなかったよね。でも、Aさんみたいに考えが変わった人もいるのかな？

ここで青山先生は、「人間」だと思うのか、「木の精」だと思うのか、児童に挙手させました。ほとんどの児童が「木の精」という意見になっていました。

先生 考えが変わったということは、何か理由があるんだよね。今から四人ずつのグループにするので、「おじいさんは、なぜ○○だと思うのか」、意見を出し合います。う。また、どうしてそう思うのか、教科書の文章から、その理由を探してくださいね。

十二分間のグループでの話し合いが始まりました。



四人グループ①(全員、「木の精」派)

B児 53ページで、おじいさんが木について説明しているよ。こんなによく知っているのは、木の精だからだよ。

C児 でも、そのくらいのことだったら、普通のおじいさんでも知っているんじゃない？

B児 54ページには、「おじいさんは、公園のできるずっと前からプラタナスのことを知っているみたいだ。」って書いてあるよ。ずっと前から知っているって、人間じゃないよ。

D児 ねえ、ここじゃない？ 59ページ。「春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きつとまた、おじいさんにも会える。」っていう部分。

B児 あー、そっだよ、そっだよ。

E児 おじいさんはプラタナスっていうことだね。

授業者より

グループ①は、全員、「木の精」という意見でしたが、はっきりしない理由では、同じ意見の友達からも賛同を得られません。意見を出し合う中で、教科書の叙述をもとに、より説得力のある理由を見つけていきました。



四人グループ② 「人間」派と「木の精」派

F児 プラタナスの木が切られたら、おじいさんが来なくなつたよね。だから木の精なんだよ。

G児 おじいさんは、日陰が欲しかったんじゃない？ 木が切られて日陰がなくなっちゃったから、来なくなつたんだよ。おじいさんは人間だと思うなあ。

H児 うん。おじいさんは木が好きな人なんだよ。

I児 ねえ、ここは？ 54ページに、「みんなによろしく。」って書いてあるけど、木に対して「よろしく」って、普通は言わないよね。

一部の児童だけで授業が進まないように、青山先生は、ところどころで話し合いを止めます。ここは、おじいさんが何者であるかの核心に迫る部分なので、できるだけ多くの児童が発言できるよう、**ペアでの交流**を設定しました。その後、全体での話し合いに戻ります。

L児 芽が出たら、おじいさんに会えるということは、おじいさんはプラタナスの木、木の精なんだと思います。

M児 木が切られたと同時に、おじいさんが公園に姿を見せなくなったっていうのは、タイミングが合います。おじいさんは木の精だって考えると、そのことの説明になる。

先生 なるほど。おじいさんが木の精だって考えると、話のつじつまが合うんだね。

おじいさんが何者であるかは、本文中に明確な記述はありません。しかし、「木の精だ」と考えると、物語の中の不思議な出来事について説明ができる」ということに、多くの児童が納得できたようです。

この後、「マーちゃんはそれに気がついているのか」という新たな疑問が生まれ、話し合いはさらに続いていきました。

自分が木の精だから言っているんじゃない？

H児 ああ、木はおじいさんの仲間だから？

G児 うーん、どっちだろう。人間のようない気もするし、木の精のような気もするなあ。

授業者より

ここで結論を出す必要はなく、根拠のある意見を出し合うことの大切さに気がつくことに意義があります。グループ②の子どもたちは、自分とは異なる考えを聞き合うことを楽しんでいるようです。

ここからは、全員での話し合いです。「人間」派と「木の精」派が、グループ内での話し合いをもとに、意見を出し合っています。そんな中、「人間」派のJさんの発言をきっかけに、話し合いは核心へと迫っていきます。

J児 59ページの「春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きつとまた、おじいさんにも会える。」という部分から、おじいさんはプラタナスの木をとっても大切に思っていることが分かります。だから、おじいさんは木を見守っている人なんだと思います。

6時

「変わらないもの」は何？

▼物語の最初から最後まで「変わらないもの」を探す

先生 昨日の授業では、「変わったもの」について考えましたね。じゃあ、今日は視点を変えたいと思います。この作品の中で、「変わらないもの」ってあるのかなあ。物語の最初から最後まで変わらなかったものを探してみよう。

友達の見え方を聞く前に、自分の考えをしっかりとつことで、話し合いの質は高まります。ここでは、一人で考える時間を少し取った後、**三人グループでの話し合い**を行いました。

三人グループ①

N児 マーちゃんたちはずっと四年生だよ。

O児 名前も変わっていない。

P児 うーん。それ、あたりまえのことだよ。他にはないのかなあ。

N児 ねえ、ベンチは変わっていないよ。

D児 え？ 僕は、59ページのその部分から、おじいさんは木の精だと思いました。もし、おじいさんが木を見守っている人だったら、今もプラタナス公園に来るはずだって、木は切られたけれど、根は残っているんだから、見守りに来ると思う。春になって、プラタナスが芽を出したらおじいさんに会えるっていうことは――。

先生 Dさん、ちょっと待って！ 今、Dさんは大事なことを言おうとしていたので、みんなにもぜひ考えてもらいたいと思います。Dさんは、この後どんなことを言おうとしたんでしょう。隣の人と一分くらい話し合ってみましょう。



P児 え？ 変わっているよ。日陰があったのに、なくなった。

N児 でも、新しいベンチに変わったわけじゃないよ。

O児 公園は何も変わっていないよ。

P児 いや、プラタナスの木がなくなったよ。

O児 でも、根があるよ。

P児 葉っぱがなくなつて、根は困っているから、変わったことじゃない？

(三人とも少しの間をえる)

N児 ねえ、分かった！ 分かった！ 分かった！ 「ぼくたちのプラタナス公園は変わらない」って書いてある。

O児 ああ、確かに。

授業者より

グループ学習の中でも、それぞれが黙って考えたり、教科書を読み返したりする時間をもつことは大事です。それが、主体的な学びや深い学びにつながるのです。

三人グループ②

Q児 変わらないものは……、まず、59ページの「ぼくたちのプラタナス公園は変わらない」。

授業者の発言「考えが変わった」ということは、何か理由があるんだよね……」（本誌P7中段）は、自分の考えをメタ認知させ、それが思考の深まりにつながることに気づかせています。そして、今の自分の考えや立場を明確にしたうえで、友達と話し合うことによって、それがどのように変化するか、期待をもたせています。また、意見には必ず理由が必要で、それも作品の叙述を根拠にすることを確認し、学習者を作品世界に立ち戻らせ、「言葉・表現」に着目するよう促しています。

考えの変容の尊重と 叙述に即した根拠の確認

授業リポートから子どもたちの思考の深まりが伝わってきます。指導者のどのような働きかけがこの学びを引き出しているのか、順を追って述べていきましょう。

授業リポートを読んで

玉川大学客員教授 輿水かおり

自在な話し合いの形態と、 相互の磨き合いによる、 深い学びの実現

3・4時の四人組での話し合い中（P7、8）、授業者は細やかにグループを回り、各グループでの話し合いの内容を把握しています。そのことが**全体**での話し合いで、「J児」「見守っている人（人間）」とD児「木の精」という異なる考えを引き出すことにつながっているのです。

続けて、授業者は、「Dさん、ちょっと待って！」（p8下段）で思考を焦点化させ、**隣どうしのペア**での短い確認を通して、全員参加の思考整理を促していきます。さらに、**全体**での意見の集約と収束・納得（p9上段）先生「なるほど。……話のつじつまが合うんだね。」という学びの質の高まりを実現させています。学習者自身の気づきや発言をすくひ上げて構造化した、見事な展開といえ

R児 うん、そう書いてあるからね。
S児 公園やおじいさんへの気持ちは、プラタナスの木がなくなっても変わらない。
Q児 あと、おじいさんのマーちゃんたちへの愛情も。
R児 え？ 両方とも変わっているよね？
Q児 変わっているっていつても、深くなったってことだから。
R児 深くなるのって、変わったことにならない？
S児 変わったことにならないと思う。
R児 そうかなあ。変わったと思うよ。それに、おじいさん、いなくなっちゃったし。
S児 おじいさんはこ（切り株）にいて、マーちゃんたちを支えているんじゃない？

授業者より

グループ②は、根拠となる叙述を早い段階で見つけ、それをさらに深く読み込んでいきました。最後のSさんの発言は、次の課題につながる大事な気づきです。

どのグループからも、教科書P59の「ぼくたちのプラタナス公園は変わらない」という叙述が挙げられましたが、話し合いの深まり方はそれぞれ異なります。このよう



に、それぞれの子どもの思考スピードに合わせて話し合いが進められるのもグループ学習のよい点です。
グループ学習の後、青山先生は、全員をグループ②のような深い読みにつなげるために、次のように問いかけました。

先生 プラタナスは切られても、「ぼくたちのプラタナス公園は変わらない」ってどういうことかな？

S児 53ページに、地上の幹や枝葉がなくなったら、根は困ってしまうという文章がある。その後、59ページには、僕たちが幹

や枝や葉の代わりだって書いてある。マーちゃんたちが守るから、プラタナス公園は変わらないということだと思う。
先生 53ページと59ページはつながっているんだね。
T児 最初はおじいさんがプラタナスを守っていたけど、最後はマーちゃんたちが守っているね。

先生 なるほど。守る人は変わったんだね。

ここまで、ペア、グループ、全員など、さまざまな形態で話し合いを重ねましたが、最後は個人の活動で締めくくります。作品のテーマについて、自分の考えをノートにまとめるという課題です。話し合いの効果は、書くときにも表れます。自分の考えを言葉にして発することで思考が整理されるので、書くときの助けになるのです。これまでの話し合いが十分生かされるまとめとなりました。



あおやま ゆ き
青山由紀
東京都生まれ。日本国語教育学会常任理事。全国国語授業研究会常任理事。著書に『古典が好きになる』（光村図書）、『板書 きれいで読みやすい字を書くコツ』（ナツメ社／樋口咲子共著）、『子どもを国語好きにする授業アイデア』（学事出版）などがある。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

ます。

6時では、**三人組**での「個人の思考場面を交えた話し合い活動」が設定されています。三人組の話し合いには、一人一人が主役になりうるという特徴があります。もちろん、何のための話し合いか、活動の目的がしっかりしているからこそ設定できる授業風景なのです。

全体での発表では、ここぞという発言を捉えて価値づけたり関連づけたりする教師の指導が不可欠です。P10中・下段のように、ポイントとなる叙述や表現について、授業者から切り込み、学習者を立ち止まらせることも重要なのです。これを支えるのは、授業者の深い教材研究と確かな児童理解であることは間違いありません。

終わりに代えて

本リポートのグループ活動では、問いかけ・同意・質問・確認など相手の思考を促す話し方が用いられて効果を上げています。多くの国語授業で、発表用の話型指導は盛んですが、今後こうした「対話的な活動における話型指導」についての研究実践も深めていくことをお勧めします。